

平成25・26年度宝塚市子ども委員会

意見書への対応状況について



平成28年（2016年）3月

宝塚市

目次

平成25年度

- 1 グループ 道路の窓口 「事故ゼロ」** . . . 1
- | | | |
|-------------|----|-------|
| 売布小学校 | 5年 | 前田 智弘 |
| 小林聖心女子学院小学校 | 5年 | 藪田 琴音 |
| 仁川小学校 | 6年 | 川口 潤 |
| 聖母被昇天学院中学校 | 1年 | 白方 晏 |
- 2 グループ SAKSA'S 「外国人と心を通じあわせる」** . . . 3
- | | | |
|--------|----|-------|
| 仁川小学校 | 5年 | 木村 雫 |
| 長尾南小学校 | 6年 | 河原 葵衣 |
| 親和中学校 | 1年 | 前田 沙菜 |
- 3 グループ ラッキーCity宝塚 「まちの活性化」** . . . 5
- | | | |
|-------------|----|-------|
| 光明小学校 | 6年 | 奥田 陽人 |
| 宝梅中学校 | 1年 | 大泉 陽路 |
| 宝梅中学校 | 1年 | 隅 颯太 |
| 小林聖心女子学院中学校 | 2年 | 永井 莉央 |

平成26年度

- 1 グループ 和の町宝塚 「平和の推進」** . . . 8
- | | | |
|---------------|----|-------|
| 長尾南小学校 | 5年 | 河原 遼 |
| 大阪教育大学附属池田小学校 | 5年 | 畑野 滉太 |
| 売布小学校 | 6年 | 前田 智弘 |
| 長尾中学校 | 1年 | 柏原 隆希 |
| 長尾中学校 | 1年 | 宮本 侑昂 |
- 2 グループ COLORFUL☆宝塚 「輝く町宝塚にするためには」** . . . 11
- | | | |
|-----------|----|-------|
| 宝塚第一小学校 | 6年 | 廣田 大和 |
| 高司小学校 | 6年 | 依光 巧磨 |
| 宝塚第一中学校 | 1年 | 奥田 陽人 |
| 南ひばりガ丘中学校 | 1年 | 河原 葵衣 |
| 中山五月台中学校 | 1年 | 田中 愛実 |
| 親和中学校 | 2年 | 前田 沙菜 |
| 報徳学園高等学校 | 1年 | 橋本 泰樹 |

担当部課：都市安全部（防犯交通安全課）、教育委員会（学校教育課）

25	グループ名	道路の窓口	テーマ	事故ゼロ
質問・提案内容（あらまし）と答弁後の対応				
<p>質問（提案）：</p> <p>宝塚市は今年度（平成25年11月時点）、まだ死亡事故ゼロというすばらしい現状を知ったので、死亡事故ゼロを市民のみなさんに知ってもらうことを提案します。</p> <p>そうすることで、車や自転車を運転する人が事故を起こさないようにしようと思い、注意深くしたいと思います。</p> <p>方法として、もっと多くの人に知らせるために、警察や市役所の人がインターネットで死亡事故ゼロを伝えるホームページを作って、トップページで知らせたらいいと思います。ラジオでは、エフエム宝塚のニュースで「宝塚市は死亡事故ゼロなのでこれからも続けることを心がけましょう」と放送してもらいます。インターネット等では小さい子どもも興味を持ってもらえるようにキャラクターを使って、分かりやすく、楽しく見られるものにすればいいと思います。</p>				
<p>答弁：</p> <p>宝塚市では、10月25日で事故発生時から24時間以内の交通死亡事故が発生していない期間が400日を超えたため、11月21日に兵庫県知事から表彰状とあわせて県庁の担当職員から「受賞は市民の皆様のご協力の賜物(たまもの)」との言葉もいただきました。</p> <p>この「交通死亡事故ゼロ」は11月末現在も続いており、このゼロが長く継続することはもちろん、交通事故そのものをなくすよう市民の皆様にお知らせして、交通安全の意識を高めていただくことが大変重要です。</p> <p>現在の取組みとしては、交通死亡事故の防止はもちろん、交通事故そのものの防止のため、警察署や交通安全協会などの皆さんと協力して、地域や学校において自転車の実技や整備点検などを学ぶ自転車教室や道路の安全な歩き方や横断などを学ぶ交通安全教室を開催したり、街角などで交通安全を呼びかけたりしています。</p> <p>特に、10月1日には「宝塚市自転車の安全利用に関する条例」を作りましたので、自転車の安全な乗り方や整備・点検、万が一の事故に備えての保険の加入などについて、広く市民の皆さんに訴えているところです。</p> <p>また、学校や地域からのご要望も含めて、ガードレールやロードミラーなどの設備や道路の整備に取り組むなど、交通事故が起きないように対策も積極的に行っています。</p> <p>こうした取組みとあわせ、宝塚警察署と協力しながら、市のホームページや広報たからづか、市役所の職員が出演するエフエム宝塚の「地域安全ニュース」のコーナーなどを通して、ご提案いただいたとおり、広く市民の皆さんに交通死亡事故ゼロが続いていることをお知らせするとともに、交通事故発生状況や交通事故防止のために注意すべきことなどをお知らせすることにも取り組めます。</p> <p>なお、学校からの手紙や市のホームページには、親しみが持てるよう、兵庫県警察のシンボルマスコットの「こうへいくん」「まもりちゃん」などの積極的な活用を検討します。</p>				
<p>その後の対応状況：</p> <p>人口20万人都市の宝塚市で交通死亡事故ゼロが400日以上続きましたが、平成25年12月に1名、平成26年1月に1名、平成27年2月に1名の交通死亡事故が発生しました。また、兵庫県下では、平成26年秋以降に交通死亡事故が急増しています。悲惨な交通死亡事故を撲滅（ぼくめつ）するため、警察署などと連携して、街頭啓発、交通安全教室の開催の他、理解しやすいホームページの掲載（けいさい）を進めていきます。</p>				
（防犯交通安全課）				

質問（提案）：

自転車の事故を減らすために自転車のルールを知ってもらう説明会などを増やすことを提案します。

平成25年10月1日より『宝塚市自転車の安全利用に関する条例』が始まりました。この機会に市民のみなさんがルールを勉強できる機会を増やしていくことが必要です。今でも交通安全教室などいろいろありますが、それがあつことを十分に伝えていなかったり、回数が少なかつたりします。宝塚市内の小学校では、一部の学校でしか自転車教室が行われておらず、対象が一部の児童に限られています。

そこで、まず、説明会などがあることを知ってもらうために、インターネットやラジオで知らせます。

また、自転車教室をまだ行っていない学校では、学校の先生が市役所や警察の人に依頼して授業で説明会などを行ってください。すでに行っている学校では全児童を対象に広げてください。地域では、公園や公民館などで自転車に乗る子どもや大人を対象に説明会などをします。時期は、土日休日に行います。

答弁：

全国的に自転車の交通ルールとマナーが守られていないことが社会問題になっており、宝塚市でも自転車に関係する交通事故の発生割合が高いことから、事故を防ぐための様々なきまりを定めた「宝塚市自転車の安全利用に関する条例」を兵庫県で初めて作りました。

自転車を安全に利用してもらうために、これまでも宝塚市立小中学校などに呼びかけて、依頼があつた学校で自転車教室や交通安全教室での自転車講習を開催しています。地域においては、土日や夜間も含めて地域の会館や公園などで自転車教室を開催しています。また、高齢者の交通事故が多いことから、今年は市内の全ての老人クラブに自転車教室、交通安全教室の開催を呼びかけたところ、徐々に申し込みの依頼が増えていきます。

さらに、小学生と高齢者の自転車競技大会も開催しています。この大会は、実技と学科試験にチャレンジするもので、県大会で優勝した西谷小学校のチームが、全国大会に出場するというすばらしい成績を残されています。

このように、自転車の安全利用のために、自転車教室や自転車競技大会の開催や街頭での呼びかけを行っていますが、現状ではまだまだ自転車の交通ルールやマナーがしっかり守られているとは言えません。また、小中学校においては自転車教室、交通安全教室が開催できていない学校もあります。

これからは、全ての小中学校で自転車の安全な運転やマナーを学習する教室を実施できるようにするとともに、夏休みや冬休みなどの前に行う休み中の生活についての学習や、授業の中でも学習を深められるようにし、全ての児童が自転車のルールについて学習して、自転車事故がなくなるようにしたいと思います。また、こうした取組みを行っていることをエフエム宝塚や市ホームページでわかりやすくお知らせします。

その後の対応状況：

平成25年10月1日、宝塚市自転車の安全利用に関する条例が施行されました。この条例に基づき、以前から実施している小・中学校での自転車教室開催を全ての学校で開催できるよう、未開催小学校には依頼、全ての小学校で開催することを目指してあります。その結果、開催校が増えていきます。まちづくり協議会などでは、土曜日曜または平日夜間にも自転車教室を開催されています。また、街頭啓発や広報紙、市ホームページ、FM宝塚の出演放送でも交通安全啓発を行っています。

交通安全教室や、自転車の安全な運転やマナーを学習する自転車教室は、現在、市内すべての学校園では実施できていません。今後もさらに自転車のルールについての学習を深めて自転車事故がなくなるよう、交通安全教室や自転車教室の実施校園が増えるようにしていきます。

(防犯交通安全課、学校教育課)

25	グループ名	SAKSA' S	テーマ	外国人と心を通じあわせる
質問・提案内容（あらまし）と答弁後の対応				
<p>質問（提案）：</p> <p>外国人が母国の文化を発表する場所をつくってはどうか。 場所は人がたくさん来て、どんな人でも行きやすい図書館や文化センターなどがコストもかからないのでいいと思います。日本に滞在している外国人の中には母国の文化を発表したくても場所がなくて出来ない人や他国文化を知りたくても知れない人が大勢います。 また、基本的な日本文化を体験してもらいたいと思います。 具体的には、餅つきや盆踊り、おはしの使い方などがいいと思います。外国人の中には、日本と母国のマナーや文化が全然違い、日本に滞在する上で支障がでている外国人がいます。国際文化センターで話を聞いたときに、外国の人が日本人には建て前と本音があることを知らなかったのが、「日本人はうそつき」だと思ったという話を聞いてショックを受けました。でも、外国人に日本のマナーや文化を体験してもらったときにそのことを話せば、日本人を見直してもらえませんか。</p>				
<p>答弁：</p> <p>外国人が母国の文化を発表できる場所について、現在宝塚市では、様々なイベントや講座を開催していますが、他国の文化やしきたりを知る機会はまだまだ少ないように思います。市内在住の外国人の方に、自国の歌や民族衣装などを披露してもらう「国際交流フェスタ」というものがありますが、もっともっと多くの方が気軽に参加できるような工夫をしていくことが大切だと考えています。また、ネパール料理やブラジル料理などを紹介する料理教室なども開催していますが、大人だけではなく子どもたちも参加しやすい場を提供していくことが大切だと考えています。 外国人の方が「宝塚に引っ越してきてよかったな。」「大切にされているな。」と実感できるような催しを積極的に開催していけるように取り組んでいきます。 次に、日本文化を外国人に体験してもらうことについては、ひなまつりやお花見などに参加できる機会をつくっていますので、より多くの方に来てもらえるように取り組んでいきます。宝塚市では、「転入外国人オリエンテーション」を開催しており、日本での生活を支障なく送っていただけるよう努めていますが、転入してきた初めのうちだけではなく、日々の暮らしの中で困ったことがあれば、その都度寄り添っていくということが大切です。また、日本の文化を知ってもらう、体験してもらうことと同じくらい大切なことは、外国人にも自国の文化を教えることだと思います。 ご提案いただいた図書館などで文化を発表する機会や餅(もち)つきや盆踊りなどを体験してもらい機会など、どんなことをすれば地域や学校で日本人と外国人との絆（きずな）を育むことが出来るか、どのようにすれば多くの方に気軽に参加してもらえるのかを考えていきます。</p>				
<p>その後の対応状況：</p> <p>宝塚市では、宝塚市国際交流協会と共同で、いろいろな取り組みを行っています。 まず、外国人が母国の文化を発表する場所をつくることについては、市内にお住いの世界各国の出身の皆さんにその国の歌や民族衣装を披露してもらう「国際交流フェスタ」や、出身国の文化を紹介する講演会や料理教室を開催しています。 基本的な日本文化を外国人に体験してもらうことについては、節分などの伝統行事や和食などの日本独自の文化に参加できる機会を市内にお住いの外国人向けに行っています。また、新たに市内で生活を始められた外国人の方向けに「転入外国人オリエンテーション」を開催して、日本での生活を支障なく送っていただけるよう努めています。</p>				
（文化政策課）				

質問（提案）：

学校の先生用に日本語を話せない外国人の親と連絡が出来るようにマニュアルを作るというのはどうでしょう。

マニュアルを作れば、日本語を話せない親と先生が連絡を取り合えるようになります。子どもはすぐに日本語を話したり読んだりすることができるようになりますが、親はなかなか日本語を覚えられない家庭が多いと聞きました。そのため、電話で学校に欠席を言わないお母さんたちがたくさんいるそうです。

具体的な文化の違いとして、修学旅行や校外学習は自由参加の国もあり、そういった国では学校行事に参加させない家庭もあるそうです。そういうときに、先生用のマニュアルがあれば、先生と外国人の親がキチンと連絡を取り合うことが出来ると思います。

マニュアルの例として、「学校行事に参加しますか?」や「なぜ学校を休んだのですか?」などの簡単な会話が出来るとすれば良いと思います。また、外国語をカタカナで表示するようになれば、外国語がわからない日本人の先生でも相手に伝わるように読めると思います。

答弁：

日本人が外国に行くと、その国の言葉が話せずに困った経験をするかもしれません。それと同じように外国から日本に来た人たちも、困ったことがたくさんあると思います。学校に通う子どもはすぐに言葉を覚えますが、その親はなかなか言葉を覚える機会がなく、日本語を十分に話せない人がたくさんいます。

宝塚市では、3年前に外国人親子の悲しい事件が起きました。この事件を受けて、勉強を教えたり相談にのったりする「きずなの家 ともにいきる宝塚」が設立されました。また、市の国際交流協会の人たちが中心となって、ブラジル籍の子どもたちの勉強や日本語学習の支援をいただいている「宝塚ジョイア」という会もあります。

その他に学校でも様々な取組みを行っており、市からは日本語が十分に話せない子どもたちや、お父さんやお母さんのために、日本語のサポーターを学校に派遣して、授業での通訳や学校の先生と外国人の親が話すときの通訳などをしていただいています。今後も、外国の子どもたちやその親に寄りそった取組みを行っていきます。

マニュアルを作ってはどうかというご提案については、兵庫県がそういったマニュアルを作成していますので、市としては、今後そのマニュアルの活用をすすめたり、また他にも親と先生が十分に話ができるように、市と学校の先生が相談しながら、より良い方法を考え、取組みを進めていきます。

その後の対応状況：

日本語が十分に話せない子どもたちや保護者のために、学校へ多文化共生サポーターや日本語サポーターを派遣しています。このサポーターは授業や懇談での通訳などを行っています。また、学校へのスムーズな受け入れができるよう、兵庫県が作成した「外国人児童生徒受入初期対応ガイドブック」、「就学支援ガイドブック」や「学校生活単語・会話文例」等を活用しています。そこには、日本の学校制度の説明や、日本語が困難な保護者が学校に連絡する時に必要な「欠席」や「早退」などの言葉が、保護者の母語やひらがなと読みを表すローマ字で書かれているなど、保護者を支援する内容が書かれています。今後も、保護者と先生が十分に話ができるよう、より良い方法を考え、取組みを進めていきます。

(学校教育課)

25	グループ名	ラッキーCity宝塚	テーマ	まちの活性化
質問・提案内容（あらまし）と答弁後の対応				
<p>質問（提案）：</p> <p>宝塚で新しくイルミネーションをすることを提案します。 イルミネーションといえば三宮にある、「ルミナリエ」や御堂筋があります。御堂筋は全長1.9kmもあり日本一だそうです。イルミネーションにはインパクトが必要だと思います。 そこで、宝塚駅から宝塚インターまでイルミネーションすると、およそ2.5kmになり御堂筋をこえて日本一になります。 更に清荒神の参道を12月31日だけ除夜の鐘のためにイルミネーションすることで話題性が生まれます。そうすることで、TVやマスコミなどで取り上げられ自然にPRすることができると思います。</p>				
<p>答弁：</p> <p>今回、宝塚駅から宝塚インターまでのイルミネーションや清荒神参道における大晦日（おみそか）限定のイルミネーションなど、実現すれば話題性が高く、また大勢の観光客の方々に来場いただけるような素晴らしいご提案をいただきました。観光客を増やすことは宝塚市が元気になるために重要なことであり、イルミネーションの活用も大変有効だと考えます。 以前開催していたイルミネーションを活用したイベント「光のさんぽみち」の経験から、大規模なイルミネーションを実施するには、周辺住民やお店の方々の理解や協力が必要になります。今年は難しいかもしれませんが、来年あたりから、どこでできるのかや清荒神清澄寺や参道周辺の方々への相談も含め、ぜひとも検討していきたいと思います。 また、宝塚で実施するのであれば、宝塚花火のように宝塚らしいと言っていたらいいようなものが実現できればと思います。</p>				
<p>その後の対応状況：</p> <p>皆さんが注目されたイルミネーションをはじめとした光を活用したイベントの注目度は高く、私たちも、ご提案のようなインパクトのあるイベントを開催できればと考えています。引き続き、開催のための費用を確保するよう検討を続けます。</p>				
（商工勤労課）				

質問（提案）：

Walkラリーについて提案します。

まち歩きは、宝塚にもありますが短くてコースが少ないです。施設見学で訪れた大阪市のまち歩きは50以上のコースがあると聞きました。宝塚にあるまち歩きも発展させていくべきなのではないでしょうか。

そこで、まち歩きではなくWalkラリーとして観光客の人に楽しんでもらうために、1つコースを考えてみました。宝塚駅からスタートして宝塚の代名詞ともいうべき歌劇をかんしょうしたあと、花の道を通り、手塚治虫記念館へ行き、有名なサンドイッチ屋の「ルマン」、温泉、炭酸せんべい屋をめぐるあと、宝来橋をわたり、駅に戻るといったコースです。観光客や地元の人に宝塚をもっともっと知ってもらいたいと思います。

答弁：

宝塚には、武庫川の河川敷をはじめ、多くの方に知ってもらいたい、楽しんでもらいたい魅力的なものやきれいな場所がたくさんありますので、まち歩きを発展させるというのは、とてもすてきなご提案だと思います。

現在、市と市国際観光協会では、すでに市民のボランティア団体の方々に実施してもらっているまち歩きに加え、新たなまち歩きのコースづくりを進めています。

来年は、歌劇100周年、市政60周年、手塚治虫記念館開館20周年のトリプル周年の年にあたります。そこで、今年から花のみちや文化創造館など、歌劇ゆかりの場所を元タカラジェンヌの方に案内してもらってまち歩きのコースを作っており、宝塚市を訪れた方にとっても喜ばれています。

まち歩きは、身体の健康のためやまちの観光にもなり、歩くことの楽しさに触れることもできます。市では、少しでも多くの方に宝塚の良いところを知っていただくため、今回のご提案いただいた内容も含めて、いろいろな情報を参考にしながら、魅力的で楽しいまち歩きのコースづくりやコースを紹介するマップづくりなどを進めていきたいと考えています。

その後の対応状況：

花のみち周辺では、市民ガイド育成事業から誕生した「夢さがし隊」や宝塚歌劇のOGさんがガイドするツアーを新たに実施しました。以前からあるツアーも含めてとても人気がありました。また、それだけでなく、中山寺から清荒神清澄寺にかけてのコースや夢さがし隊がガイドした武田尾コースについても人気があり、宝塚のいろいろな魅力を伝えることができました。

（観光企画課）

質問（提案）：

私たちが知っている大きなまちや有名なところには、必ずといっていいほどご当地グルメがあります。そこで、宝塚のご当地グルメとしてすみれ食いをPRしてはどうでしょうか。

PRの方法として、「宝塚すみれ食い大会」を設けます。そして3つの部門、早ぐいの部、大ぐいの部、アイデアの部に分けます。アイデアの部は、今あるすみれ食いに何かをプラスする部と、宝塚の特産物を使った新しい食べ方を提案する部の2つに分けます。どちらとも味、見た目などをしん査したあと、「新すみれ食い」として登録します。

このようにすることで、市外の方からもこの大会に参加する人が増え、やがて全国に広がっていくと思います。そして、宝塚の店ですみれ食いを売ることによって郷土意識が高まり、宝塚がよりよくなっていくと思います。

※すみれ食いとは、「すみれgood eat」の略です。宝塚で有名な炭酸せんべいと牛乳を混ぜたものです。

答弁：

「すみれ食い」を広めていく取組みとして、宝塚商工会議所青年部では、おいしいまち宝塚やサマーフェスタなどのイベントでの販売やPR活動を行っておられます。

今回ご提案いただいた「早ぐいの部」と「大ぐいの部」に関しましては、安全面への配慮も必要ですが、実施について商工会議所青年部の方々と検討したいと考えています。「アイデアの部」に関しては、ご当地グルメの開発になるのではと期待しますので、併（あわ）せて検討したいと考えています。

商工会議所青年部の方々も、宝塚を知ってもらいたいとの気持ちからはじめた「すみれ食い」が、子ども委員の皆さんの心に届いたことを大変喜ばれております。

「すみれ食い」を広めたい、宝塚をもっと知ってもらいたいという皆さんの気持ちが、市外への情報発信となり、また市民の郷土（きょうど）意識の高まりにつながるよう、取組みを進めていきます。

その後の対応状況：

平成25年度の意見発表会で、皆さんが発表された「すみれ食い」の新レシピは素晴らしく、「宝塚すみれ食い」のアイデアとともに皆さんの斬新（ざんしん）な発想に大変感心したところです。

「すみれ食い」を発案された商工会議所の方々は、「すみれ食い」に続く宝塚市の名産品として「宝塚すみれシャンメリー」を商品化され、新たな名産品となるよう熱心に活動を続けておられます。昨年からは、おしゃれなケース（紙筒）に入れて販売をされるなど、宝塚市の新たな名産品として着実に成長しています。

このように、現在、商工会議所の方々は「宝塚すみれシャンメリー」のPRをメインに活動されていますので、「宝塚すみれ食い大会」などの大規模なイベント開催は難しいとのことですが、商工会議所の方々も私たち市役所も、名産品を新たに産み出して、全国に広めたいとの思いは皆さんと同じです。

今後、「すみれ食い」を全国にPRするタイミングが来たときには、一緒になって取り組んでいきたいと思っております。また、その時には是非皆さんのお力もお借りしたいと思っておりますので、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

（商工勤労課）

担当部課：総務部（人権男女共同参画課）、教育委員会（学校教育課、教育研究課）

26	グループ名	和の町宝塚	テーマ	平和の推進
質問・提案内容（あらし）と答弁後の対応				
質問（提案）： 小学校や中学校の社会見学で市内の戦跡めぐりを取り入れることを提案します。修学旅行で、戦争の歴史を学ぶ前の、小学5年生や中学2年生の社会見学に取り入れ、そして、中学生は、調べ学習で市内の戦跡についての課題を出して、興味を持ってもらおうが良いと思います。宝塚の子どもたちは、少なくとも1度は、ほくたちの町の戦争の歴史について考える機会をもつべきだと思うからです。学校での戦跡めぐりをきっかけに、このあとに提案する、子ども向けの戦跡めぐりに興味をもつ人が増えることも期待できます。				
答弁： 修学旅行で戦争の歴史を学ぶ前の小学校5年生や中学校2年生の社会見学到市内の戦跡めぐりを行うというのは、これから地域の歴史を学ぶことに意欲を持つことができ、大変よい案だと思います。ただ、社会科の学習については、各学年で学習することが決まっているため、社会見学は、学習内容に関連した見学になります。提案していただいたように、小学校5年生で市内の戦跡めぐりを行うことは難しい状況です。 しかしながら、多くの小・中学校では、修学旅行で平和について学ぶことを一つの柱として取り組んでおり、事前・事後学習として、平和についての調べ学習等を行い、戦争について深く学んでいます。学習の中で、宝塚の戦争の歴史についても学ぶことができますので、先生たちに平和を考える市内史跡・戦跡めぐりの説明資料を配布して活用してもらうようにしていきます。 また、小学校6年生の社会科で『地域の歴史をさぐる』、中学校の歴史的分野で『でかけよう！地域調べ』というような、身近な地域の歴史について学習する機会があります。その際、身近に残る戦争の足跡を見てまわることもできます。 さらに、宝塚市では、毎年、公民館が主催する『「平和」みる・きく・伝える展』を開催しており、生命の尊（とうと）さや平和の大切さを共に考え、歴史から学び、次世代に伝える場となるよう努めています。				
その後の対応状況： 教育委員会では、子どもたちがこのようなすばらしい平和への思いを持っていることを市内の幼稚園長、小中学校長が集まる会議で紹介し、各学校で、学習に取り入れることができるようお願いしました。また、ひらい人権文化センターで開催している「人権わくわく学級」では、平成27年の夏に「親子平和フィールドワーク」を実施し、親子で戦跡めぐりをしました。身近なところに戦争の爪痕（つめあと）が残されていることに驚き、家でも家族で話したいという感想もいただき、戦争について学ぶ貴重な機会となりました。				
（学校教育課）				

質問（提案）：

学校の先生や大人たちのための研修会を開き、ほくたちに、この町の戦争の歴史について教えてくれる人を増やすことを提案します。

戦争を体験した人や、戦争について知識のある人を公民館や学校に招いて、保護者の方や学校の先生たちに話をきいてもらい、資料や写真、動画を通して学んでもらいます。さらに、市内のさまざまな戦跡を見学し、知識を深めるといいと思います。これは、先ほどの社会見学での戦跡めぐりを実施する上で、とても重要なことです。教えてくれる人がいなければ、戦跡めぐりをするにはできません。だから、学校の先生が必ず参加できるように、研修会は土日や祝日に取り入れます。

また、戦争を体験した人々は、高齢化が進んでいるため、今話を聞いておかなければ、その貴重な体験をうけつづけることはできません。だから、研修会を開いて、子どもたちだけでなく学校の先生や大人たちが、戦争の歴史について学べる機会を作ってほしいと思います。

答弁：

学校では、平和について、道徳や総合的な学習の時間を中心に、社会科をはじめ様々な教科の中で学習していますが、提案にもありましたように、子どもたちに戦争の歴史を教える学校の先生が、もっと戦争について学ぶ機会を持つことも大切だと思います。

そこで、戦争についての体験や知識のある人を学校に招いて、平和がいかに大切であるかを語ってもらい、子どもたちが学習を深める際に、多くの先生にも参加してもらい、先生の学びの機会としていきます。

また、宝塚市に新しく採用された先生には、市内の史跡を巡る「宝塚市の風土と歴史を知る」研修会を実施していますが、その時に、戦争に関する様々な歴史を振り返る視点も取り入れ、学校の先生の戦争への理解を深めるようにします。

さらに、学校の先生に「宝塚市の戦跡をたどる」研修会を実施し、子どもたちに戦争の悲惨さや歴史を語り継げる先生を増やしていきます。

その後の対応状況：

宝塚市民や宝塚市の学校教育を担う教職員が宝塚市の戦争の歴史を知ることは大切なことだと考えています。このため、平成23年度から平和を考える市内史跡・戦跡めぐりを実施しています。この他、平和映画会、平和アニメ映画会、平和を願う市民のつどい、平和パネル展、平和特別講演会など様々な平和事業を行い、多くの皆様に戦争や平和のことを知ってもらえるよう努めています。また、市内各学校においては、戦争体験者から講話を聴（き）く学びを通して、児童生徒や教職員の戦争の歴史に対する理解を深めるとともに、平和の大切さを再認識出来るように取組を進めました。その他、戦争の貴重な体験は、「市民による戦争体験記録集」として、平成27年3月に発行しました。

平成27年度は、これらの催しを土曜、日曜に5回開催しましたが、今後とも、学校の先生や保護者の方々が参加しやすいよう、土曜、日曜、夏休み中の開催や学校の研修事業となるよう、教育委員会等とも協議し検討していきます。

（人権男女共同参画課、教育研究課）

質問（提案）：

小、中学生にも分かりやすい、子ども向けの戦跡めぐりのイベントを市の主催で開催することを提案します。

宝塚のゆるキャラを使って、小学校低学年にも親しみやすいように説明をします。また、宝塚の広報に案内をのせ、各学校にチラシを配り、より多くの人に参加してもらえるようにします。

そして、戦跡めぐりの感想の作文を書いてもらって、コンクールを主催し、宝塚の特産物を賞品にすることで、宝塚の戦争の歴史を知ってもらうとともに、今の平和な宝塚の良さについても知ってもらえる良い機会になると思います。

答弁：

宝塚市では、平和に関する取組の一つとして、平和を考える市内史跡・戦跡めぐりという事業を実施しています。この事業は、宝塚市内にある戦争に関連する史跡や施設を実際に見ることで、宝塚でも戦争の被害があったことを実感してもらい、平和の大切さについて改めて考えていただくことを目的に実施しています。

この事業には、大人だけでなく、子どもにも参加いただいております。今年も10人程の子どもの参加がありましたが、今後、子ども向けの市内史跡・戦跡めぐりの実施に向けて取り組めます。

実施に際しては、提案にありました各学校へのチラシの配布はもちろん、ゆるキャラの活用や、戦跡めぐりの感想文のコンクールの開催のほか、子ども向けのわかりやすいパンフレットの作成、子どもたちに参加していただきやすいような事業のネーミング等についても考慮します。

その後の対応状況：

ご提案のありました子ども向け戦跡めぐりは、平成27年8月29日にキッズ・ピース・ウォークとして実施し、今後も継続していきたいと考えています。実施にあたっては市の広報紙やホームページへの掲載（けいさい）、チラシの小・中学校への配布を行い、参加者を募（つの）りました。当日は、小・中学生16人、保護者5人の計21人が参加しました。また、説明資料は、平仮名を打ったり、話し言葉で書いたりしてわかりやすいよう工夫しました。

実施後のアンケートでは、宝塚の戦争の歴史がわかり、平和の大切さを感じたとの感想が寄せられました。ゆるキャラの活用や感想文コンクールまではできませんでしたが、今後も楽しい催（もよお）しとなるよう工夫していきますので、皆さんどんどん参加してください。

（人権男女共同参画課）

26	グループ名	COLORFUL☆宝塚	テーマ	輝く町宝塚にするためには
質問・提案内容（あらまし）と答弁後の対応				
<p>質問（提案）：</p> <p>手塚治虫記念館の「アニメ工房」をグレードアップし、本格的なアニメ作りができるようにすることを提案します。</p> <p>方法として、30秒以内のアニメを作れるようにします。また、効果音、色を付けられるようにします。色はたくさん種類を用意します。さらに、アニメの進行を途中保存できるようにします。なぜなら、次に来たときに続きがかけられるようになり、2回以上来てくれる人が増えると思います。</p> <p>さらに、年に1度、アニメコンテストをします。「笑い」「感動」の2つの部門を作り、その中で年齢別に審査します。審査方法は、一般の人とアニメ制作に詳しい人にしてもらいます。一般の人にはエントリーされたアニメをインターネットで審査してもらいます。優秀な人には賞を与えます。例えば、最優秀賞・優秀賞・手塚治虫賞などです。賞を取った人にはオリジナル図書カードなどの賞品を与えます。</p> <p>また、広報たからづかやホームページなどで開催を告知し、より多くの人に参加してもらいます。</p>				
<p>答弁：</p> <p>現在、アニメに関しては、館内で手塚アニメの紹介や、アニメの歴史、制作方法に加え、初歩的な制作体験コーナーを設けています。特に、その体験コーナーは人気があり、できるだけ多くの方にご利用いただくために40分間の限られた工程にし、そして内容も初期のアニメづくりの原理を学んでいただくため、一般的に使われているデジタルペイント方式ではなく、紙に鉛筆でキャラクター等を描いて絵を動かすという方式にしています。</p> <p>ご提案の30秒以内のアニメ作りや、効果音、色づけ等々は、アニメづくりの原理を学ぶという今のコーナーの考え方から難しく、備えている機器やソフトウェアでも対応ができません。</p> <p>今後とも、皆さんにアニメづくりと手塚作品に関心を持っていただくためにも、夏休みなどに専門のアニメーターを招いてアニメ教室を開催し、更に理解を深めていただくようにします。</p> <p>アニメの原理を学ぶことに加えて、機器やシステムの更新の中で、色づけや描く枚数を増やすことができるようにして、時間に余裕をもってチャレンジできるように検討します。</p> <p>その上で、機材や専門家の配置、レベル差等々、解決すべき点がありますが、アニメコンテストの開催について、手塚プロダクションとも相談をしてみたいと考えます。</p>				
<p>その後の対応状況：</p> <p>もっと本格的なアニメーション体験ができるよう、宝塚大学と連携して、平成27年9月に「アニメーション体験教室」を開催しました。ペンタブレットを使って、画面に描いた自分のキャラクターに多彩な色付けをしていき、完成後にキーボードを利用して、背景である記念館の中を探検していきます。COLORFUL☆宝塚の提案者ご自身も参加いただき、グレードアップを実感されました。親子による参加が多く、親子間のコミュニケーションが促進されたことと思います。また、来館時にイベントの実施を知って、その翌週に再び東京からバスでお越しいただく参加者もいました。これまでになかったアニメーション体験で、アニメーションにも一層の関心を持っていただきました。</p>				
（手塚治虫記念館）				

質問（提案）：

建物をスクリーンとして映像を映して、その建物が動いているように見せる「プロジェクション・マッピング」を行うことを提案します。

プロジェクション・マッピングを行うことで、フェイスブックやツイッターなどで動画がアップされて、その情報が広がり、観光客が増えると思います。

不定期でいいので、年に1度、宝塚大劇場で行うといいと思います。宝塚大劇場で行うのには、理由があります。

宝塚大劇場は、大きくて分かりやすいし、駅から近いので、みんな場所を知っているし、宝塚歌劇の来場者は、女性ばかりなので、男の人も来てほしいと思ったからです。さらに、さっきの手塚治虫記念館の提案にも活かしたいので、手塚治虫の作品を中心に映像を作ればいいと思います。

例えば、夏には宝塚観光花火大会と手塚治虫が描いた漫画のコラボで、巨大な火の鳥を映します。また、クリスマスには「ジャングル大帝レオ」や「三つ目がとおる」など、あまり知られていなさそうなシリーズの主人公を映したり、大晦日には手塚治虫が描いた漫画の主人公が大集合する映像を映し、アトムたちと一緒に年を越したりします。

答弁：

最近、様々な場所で見かけるプロジェクション・マッピングは、大阪城のような大迫力のものから、室内での小規模なものまで種類がたくさんあります。

ご提案いただいた花火大会や宝塚大劇場など広い場所では実施するには、克服する課題もあり、準備に相当な時間が必要です。大規模なものをすぐには実施できませんが、アニメタウンフェスタなどの既存事業での活用や新規事業でのイベントについても、演出の一部としてプロジェクション・マッピングの活用を検討していきます。

今後、近隣の皆様や手塚作品の著作権（ちょさくけん）を持つ手塚プロダクションと相談しながら、まちが賑わう楽しいイベントに挑戦していきたいと思います

その後の対応状況：

プロジェクション・マッピングと並ぶ「光のアート」として、花のみちのイルミネーションを企画しています。花のみちは宝塚駅から宝塚大劇場へと続く一本道ですので、観劇後のお客様をはじめ、男女問わず多くの方がイルミネーションを観にいらっしやると期待しています。同時に、手塚治虫記念館とも連携し、手塚作品とコラボした楽しいイベントになるよう努めてまいります。

（観光企画課）